

令和 7 年度 第 2 回図書館協議会

- 1 日時 令和 8 年 2 月 26 日（木）14：00～15：30
- 2 場所 中央図書館 2 階研修室
- 3 出席者（委員） 鋤柄委員、八幡委員、玉置委員、雄長委員、
大池委員、島田委員、鈴木委員、千種委員
（事務局）瀧本中央図書館長、関口中央図書館長補佐兼情報サービス係長、
矢澤中央図書館長補佐兼上郷図書館長、
氏原中央図書館長補佐兼地域読書推進課係長兼鼎図書館長、木下管理係長
- 4 中央図書館長挨拶
- 5 会長挨拶
- 6 会議事項
 - （1）中央図書館開館 110 周年記念事業の報告
 - （2）令和 7 年度事業報告および令和 8 年度事業計画について
 - （3）その他
- 7 連絡・報告事項

- 8 会議内容 （司会） 玉置会長
 - （1）中央図書館開館 110 周年記念事業の報告
 - 会 長 最初に会議事項 1、中央図書館開館 110 周年記念事業の報告につきまして、事務局の説明をお願いします。
 - 事務局 資料①「飯田市立中央図書館開館 110 周年記念事業『みんなでつくる明日の図書館』実施報告」に基づき説明。

飯田市立中央図書館開館 110 周年記念事業 「みんなでつくる明日の図書館」実施報告

目的

飯田市立中央図書館は、大正 4（1915）年に公共図書館として開館し、令和 7（2025）年で開館 110 周年を迎えた。この節目の年に市民協働で記念事業を実施し、図書館のあゆみを振り返ることで、飯田市立図書館のこれからを考える機会とする。また、事業を通して、学び合いや読書活動、交流活動の楽しさを感じ、活動への意欲や関心が湧き、やってみたいことが生まれたり、気軽に活動を行ったりする市民が増え、地域の活力につながることをめざす。

主催

いい図書 110 もりあげ隊（10 人）・飯田市立図書館

事業内容

（1）としょかんマルシェ

【実施日時】 9 月 23 日（火・祝）午前 10 時～午後 4 時

【参加人数】 1,006 人

内、一般参加者 908 人、出展者 34 団体（約 80 人）、実行委員 10 人、ボランティア 8 人

【内容】

・テーマを「本と人との素敵な出会い・交流」とした。人形劇、英語絵本の読みきかせ、大型紙芝居、音楽ライブ、小物づくりワークショップ、雑貨販売、飲食販売など多様な催しの出展があった。

（4. 5 月に出展者募集、7 月出展者説明会開催）。

・出展者には図書館の本から数冊選んで紹介展示をしていただき、交流のきっかけとした。

【成果】

・実行委員から発案された企画であり、楽しみながら準備を進める実行委員やボランティア、出展者など、多くの住民の主体的な活動があり、一緒に作り上げる楽しさを共有して住民のやりたいことの実現ができた。参加者、運営者それぞれが充足感を得ることができ、新たなつながりもできた。

（2）中央図書館のあゆみ展

【実施期間】 11 月 15 日（土）～30 日（日）

【来場者数】 749 人（一般 578 人、こども 171 人）

【展示説明会】 11 月 15 日（土）午後 2 時～3 時 参加者 28 人（一般 25 人、こども 3 人）

【内容】

・歴史年表パネル、貴重資料、図書館用品、図書館の模型、関連資料の展示

・あゆみリーフレットとひさかた和紙の記念しおりの配布、図書館エピソード 108 枚展示

【成果】

・多くの方に図書館の歴史や地域の読書のあゆみ、サービスの内容を知っていただくことができた。

・何回も来てくださったり、知り合いを誘ってくださったり、思い出の共有や人と人とのつながりを広げることができた。

・追手町小学校の読書週間に重なり、3～6 年生が来場してくれた。後日、保護者と一緒に再来場する児童もいた。開館当初、追手町小学校内に中央図書館があったことに多くの児童が興味をもった様子であった。

（3）図書館の明日（あした）を語る会（シンポジウム）

【実施日時】 11 月 29 日（土）午後 1 時～4 時 30 分

【参加人数】 69 人＋理事者・職員 14 人＝83 人（定員 60 人）

内、利用者団体 10 人、他図書館関係者 6 人、コアカレッジ 8 人、分館 10 人

【講演会】

- ・講師：吉成信夫氏（元ぎふメディアコスモス総合プロデューサー）
- ・テーマ「図書館はみんなの森なんだーメディアコス冒険記ー」
- ・来場者年間 100 万人を超える、岐阜市立図書館を中心とした複合施設「みんなの森ぎふメディアコスモス」が現在の姿になるまでには、様々な楽しい企画と市民やこどもたちとの交流の積み重ねがあった。賑わいを創出する施設に成長したお話を伺った。

【事例発表】

- ・事例発表者：新井直彦氏（長野県立大学ソーシャルイノベーション創出センター
地域コーディネーター）
- ・南信州地域で、りんごの木をつかったりんごの形の本棚づくりなど様々な楽しい企画で交流を生み出している事例を発表いただいた。

【「図書館エピソード」紹介】 図書館エピソード提出者 108 人

- ・集まった 108 人の「図書館エピソード」の中で、7つのエピソードを発表した。

【パネルディスカッション】

- ・パネリスト：吉成氏、新井氏、いい図書 110 もりあげ隊隊長、飯田市長
- ・新井氏の進行により、住民と図書館が協働したからできた「としょかんマルシェ」のことが話題になり、「よってたかってつくる」のが飯田らしさ（ムトスの精神）だと共感しあった。

【グループトーク】

- ・11 のグループに分かれ、本や図書館に関する「ちょっぴり楽しい」やってみたいことを出し合った。やってみたいことを書いた付箋は 194 枚あり、後日館内に貼り出し、参加していない方にも見ていただいた。

【成果】

- ・講演会や事例発表は多くの参加者に好評で、グループトークでもいきいきと楽しそうに語り合っている様子が見られた。
- ・図書館の常連利用者、利用者団体、飯田コアカレッジの学生、中学生の参加があり、様々な立場、世代の方が交流しながら、これからの図書館や自分がやってみたいことを考えることができた。

（４）図書館 PR 動画制作・上映

【内容】

- ・5月～11月にかけて飯田コアカレッジ2年生9人と、ドローンカメラで撮影して図書館施設の魅力をPRした動画、利用者インタビューの動画、こどもが主役の5分程度の動画3本を制作。
- ・こどもたちや住民のみなさん（16人）、図書館利用者団体の皆さん（6団体）、実行委員の皆さんに出演していただいた。
- ・「としょかんマルシェ」や「図書館の明日を語る会」で上映し、飯田市公式YouTubeチャンネルにアップしてある。

【成果】

- ・若い世代が地域の人と一緒に、地域の社会教育施設の利用推進や魅力発信を考えながら動画制作をしたことで、多くの方の興味を喚起することができた。

(5) 本の紹介「よむとす」紹介文募集

- ・月2回、職員が交代で本を紹介する「よむとす」コーナーに掲載する本の紹介文を市民募集した。応募者7人の紹介文を掲載。

(6) ボランティアの協力

- ・開催にあたってはボランティアを募集し、11人に協力いただいた。
- ・「としょかんマルシェ」の飾り作りや会場設営・片付けのお手伝い、「中央図書館のあゆみ展」と「図書館の明日を語る会」の受付と会場の片付けをお手伝いいただいた。

広報

- ・広報いいだ 11月号特集記事
- ・いいだ CATV テレビ広報 11月号、「今日の5分」
- ・いいだ FM、月刊いいだ、週刊いいだ、信濃毎日新聞、南信州、中日新聞、長野朝日放送、SBC ラジオ等

全体を通して

- ・多くの方にご協力いただき、記念事業を成功させることができた。市民協働の良さや学習交流の楽しさを多くの方に知っていただくことができた。
- ・事業を通して多くの市民の方の図書館への想いが集まり、それを共有することで想いや人とのつながりを広げることができた。
- ・市民のみなさんが主体的に関わってくださり、その交流活動の楽しさから新たな活動やつながりが創出され、3月1日（日）に「いい図書もりあげ隊カフェ」を開催予定である。

[質疑・意見聴取]

○会 長 今の事務局の説明を受けて、ご質問ご意見等、お寄せいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員A シンポジウム「図書館の明日を語る会」に参加した。グループトークでは、いい図書110もりあげ隊の方や飯田コアカレッジの学生さんが活発に意見を出していて、やりた

いことが実現されるといいと思った。
また、その中に学校で読み聞かせボランティアの活動を行っている方がいらしたが、図書館と関わりを持っていないとのことであったので、学校で読み聞かせボランティアを行っている方たちとも図書館でネットワークを作り、つながりを持つことができるとよい。

開館 110 周年記念事業は、図書館から与えられたことに市民が参加するというイメージがあったが、図書館が決めたことを行うというのではなく、市民の皆さんが自主的に考えたことを発信できたことがよかった。

○委員B 「としょかんマルシェ」に家族で参加した。図書館で本を借りた際にカウンターでチラ

シをもらい、こどもがすぐに「行きたい」となって参加した。普段こどもと図書館に行く際は、「走らない」「騒がない」など、いくつも約束をしてから行くようにしているが、「としょかんマルシェ」の日はとてもにぎやかで新鮮でもあり、こどもたちもとても楽しそうだった。

キーワード探しの「としょかんミッケ」では、キーワードを探すために親子で図書館内をいろいろと回り、カーペットのおたのしみコーナー以外の普段は行かない場所にも行って、「こんな本がここにあるんだ」と気づくこともできて、楽しかった。

○委員C

「としょかんマルシェ」と「中央図書館のあゆみ展」に何回か参加した。「としょかんマルシェ」は大勢の人が来ており、「図書館ってこんなに人が集まる場所だったんだ」とびっくりするくらいにぎやかだった。その話を図書館職員にすると、「昔の図書館はいつもこのぐらいの人たちが来ていましたよ」という話であったが、「本当かな」と思うぐらいの来館者であった。

「中央図書館のあゆみ展」は来館者がもらえるひさかた和紙のしおりが気に入り、何回か足を運んだ。

資料全体を通して、「本を借りるだけではない交流を創出する場所としての図書館」と書かれており、こうした事業を今後も「いい図書もりあげ隊」で継続していくという話であったが、通常の開館時に本を借りるだけでなく、こんなことができるという具体的な案があれば教えていただきたい。

○委員D

「中央図書館のあゆみ展」に何回か参加した。

組織を広げて交流することでいろいろなアイデアを得て活動につなげていったということであるが、参加した人たちが「楽しい」と思わないと続いていかない。「いい図書もりあげ隊」は継続的に参加してくれる方もいるとのことなので、こうした図書館のファンクラブが広がっていくと、図書館の可能性も広がっていくと思う。

また、全国的にも同じようなことを行っている図書館もあると思われるため、そうした図書館と交流して情報交換をしながらネットワークを広げていくと、知らないことを知り、新しいアイデアが浮かんでくる。そうしたこともしながら、よい取組にしてほしい。

○会 長

飯田コアカレッジの学生さんが作成した動画に、「声の輪」会員全員で参加した。「図書館の明日を語る会」は狭い会場で多くの人たちが話し合ったが、普段図書館にいないコアカレッジの学生世代の若い人たちが参加することで、高齢者や親子とは違う視点からの意見がもらえた。普段図書館に関わっている方たちとは少し違う発想であったため、「いい図書もりあげ隊」が継続していくのであれば、コアカレッジの学生世代の人たちが継続して参加してもらえる仕組みも必要かもしれない。

動画制作については、飯田コアカレッジからの申し出か。

◇事務局

飯田コアカレッジの学生さんによる動画制作は、図書館側から依頼して、ご協力いただいた。

飯田コアカレッジのカリキュラムの中に地域について学ぶ探究学習があり、地域の人たちと一緒に地域を学ぶ授業の一環で作成してもらった。

○会 長 図書館を拠点に活動している団体は、その活動を次の世代につないでいくことが大変になっている。図書館も様々な世代の人たちからいろいろなアイデアをもらって、「楽しい」活動を行ってほしい。

(2) 令和7年度事業報告および令和8年度事業計画について

○会 長 続きまして会議事項2、令和6年度の事業報告および令和7年度の事業計画について、事務局の説明をお願いします。

○事務局 資料②「第5次飯田市立図書館サービス計画に基づいた令和7年度の事業報告及び令和8年度取組」に基づき説明。

令和7年度の振り返りと令和8年度取組

I 図書・資料・情報提供を充実させます

- ・利用状況や地域の話題などを踏まえ、選書会議で協議しながら多様な図書を購入した。利用者の興味関心を広げるように、話題性や季節を重視したおすすめ本を設置し、よく利用していただけた。
- ・貸出利用者数は微増であるが、継続してより多くの方に利用していただけるような方策が必要である。
- ・国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に入力していた郷土のレファレンス事例の一般公開を始めた。利用者に類似の調査に活用いただけるように広報・紹介が必要である。
- ・録音図書は、リクエストを中心に必要な方へ提供を行った。録音図書を必要とする方に、貸出サービスを知っていただく方策が必要である。
- ・図書館ウェブサイトのトップページは昨年より多くのアクセス数となっている。
- ・ビジネス支援では、商工会議所の「創業塾」において本や図書館の紹介を行った。2月28日に生成AIの上手な使い方についての講演会を行う予定。
- ・美術博物館、歴史研究所等の関係機関と連携したテーマ展示を行い、郷土資料を紹介することができた。図書リストの提供・配布も行った。
- ・書庫の保存スペースの有効活用のため、除籍作業を進めるとともに分野別保存基準の作成を進めた。
- ・多様なニーズに応えるため、利用者との対話を大事に、地域の話題や蔵書内容を考慮しながら幅広く図書を購入して提供する。
- ・情報探索支援のため、継続して「レファレンス協同データベース」でのレファレンス事例公開を進める。また、図書館探検ツアーを行い、情報探索の紹介を行うほか、本を探しやすい書棚づくりに取り組む。
- ・ビジネス支援では、引き続き関連施設・機関と協力し、サービスや図書の紹介を行い、利用を促進していく。
- ・障がい者サービスを必要とする人へ届く効果的な利用PRを福祉課と相談しながら進める。

Ⅱ 学び合いによる人と人とのつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

- ・文学講座では北斎館の学芸員を講師に招き、蔦屋重三郎の功績を通じて江戸の出版文化について学ぶ機会を提供した。昨年度に引き続き参加してくださる方もあった。
- ・伊那谷地名研究会との共催で、伊那谷地名講座とワークショップを2月22日に開催した。
- ・継続して、気軽に参加でき、読書について情報交換したり交流したりすることができる場づくりを検討して取組を行う。

Ⅲ こどもの読書活動を推進します

【乳幼児（就学前）】

- ・7か月児への「はじめまして絵本」プレゼントと読み聞かせ、2歳児相談でフォローアップとしておはなし会等を行い、親子で絵本を楽しみ、心を通わせる時間を持つことを働きかけた。令和8年度も引き続き実施する。
- ・市内の保育所等を通じて、4歳児（年中児）へ「おともだち絵本」プレゼントを実施し、幼児期に家庭で絵本を楽しむ時間を持つことを支援した。令和8年度も引き続き実施する。
- ・絵本の楽しさを体験する機会を増やすため、保育所等を通じて各家庭へ定期的に本が届く仕組み作りに取り組んだ。おともだち絵本事業の実施と併せて保育園への働きかけを行い、園への団体貸出や家庭への持ち帰り、保育士向け講座につながった。（団体貸出34園、家庭への絵本持ち帰り33園）。

【小学生・中学生】（重点取組）

- 図書館おすすめ本リストを活用した企画「おはなしぼうけんたいコロポン」や、他機関との連携企画を行い、読書意欲を高めるための取組を行った。
- 学校図書館との連携を進めた。
- ・今後の読書推進に活かすために飯田市児童・生徒読書調査を行い、小中学生の読書の実態把握を行った。

資料③「飯田市児童・生徒読書調査結果報告書〔全市版〕」に基づき説明。

*自発的な読書について

- ・読書が「好き」「どちらかというと好き」を合わせると小学校では78.0%、中学校で71.6%。
昨年度と比較して小学校は1.2ポイント、中学校は4.6ポイント下がった。
- ・「おもしろい、感動した」等の本に出会った割合は小学校で80.4%、中学校で69.7%あり、多くの本の書名が回答された。一方、出会えなかった児童・生徒も、小学校では19.6%、中学校では30.3%いる。
- ・質問2・3とも学年が上がると「好き」「おもしろい」という数値が下がる学年が多い。要因の究明と対策が必要である。

*読書習慣について

- ・日常的に自発的な読書をしていると思われる割合（週 30 分以上）は小学生が 42.1%、中学生が 39.6%。
- ・授業等以外の読書を尋ねた【質問 5】の本を読まない割合は小学校で 16.1%、中学校で 24.3%。【質問 6】の授業等の読書を含めた不読率は、小学校は 4.9%、中学校は 13.8%と、どちらも 10 ポイントほど下がることから、自発的には読まなくても、学校の授業や「読書の時間」などにより、読書に親しんでいる児童・生徒があることがわかる。
- ・本を読まない理由は、学年が上がるにつれ「いそがしい」「ほかにやりたいことがある」の割合が上がる。テレビやインターネットの影響も高学年から顕著である。
- ・「読みたい本がない」割合が高く、「読みたい」と思う本と出会える機会の創出が必要である。

*図書館の利用について

- ・学校図書館、市立図書館、分館を利用している児童・生徒はおよそ 7 割で昨年と変動はない。
- ・小学生の 54.7%が学校図書館を、38.8%が中央・県・上郷・駅前図書館を、22.4%が分館を利用。
- ・中学生の 57.2%が学校図書館を、28.9%が中央・県・上郷・駅前図書館を、9.6%が分館を利用。
- ・読む本の選び方は「友だちのおすすめの本」が 49.5%で、昨年度同様、小中学校ともに友だちの影響が大きい。
- ・中学生はTV やネット情報とともに、映像化された作品を読むという回答も多くあった。興味や関心のある分野の把握が必要である。
- ・自由回答では、市立図書館のおすすめ本リストの取組「コロポン」で読む本を選ぶという回答が複数あり、取組の効果が見られた。
- ・令和 8 年度も学校図書館との連携を強化し、合同研修会の開催、担当者会への参加などを行う。

【高校生】

- ・飯田駅前図書館で本に親しむイベントを 2 回実施。また、本の紹介掲示板を設けたところ、多くの方に本を紹介いただくことができた。
- ・飯田駅前図書館を多くの方に利用いただけるように、蔵書配置などの見直しを行う。

【こども読書推進事業】

- ・絵本から、読みごたえのある本を楽しむ読書の力をつけるためのステップアップが課題となっており、そのための取組として、こども読書活動推進講演会「絵本から物語へ」、実際の取組を考えるワークショップ「『読書っていいな』Project2025」（子どもの本研究会と共催・3 回）を行った。学校司書の参加もあり、学校での読書活動推進につながった。

- ・ こども連れでは利用しづらい雰囲気があるとの声を受けて、こどもが気兼ねなく過ごせる「こどもタイム」の実施に向けて準備を進めた。令和8年度から「図書館こどもタイム」の時間を設定し、親子が安心して長時間滞在できる環境づくりをすすめる。
- ・ 協働で読書推進に取り組む体制づくりのために、市民との懇談の機会や、関係機関との連携をすすめ、令和8年度に「飯田市こども読書活動推進計画」を策定する。

【こどもの読書活動に関わる人への支援】

- ・ 職員が講師となり、読みきかせボランティアの会研修会を実施した。
- ・ 令和8年度は学校での読み聞かせボランティアの皆さんにも参加を呼びかけて、読みきかせボランティアの会研修会開催等の支援を行う。

Ⅳ 身近に使える分館の充実を図ります

- ・ 地区住民のニーズや各地区の特色に応じた図書の購入により、利用者の増加に努めた。
- ・ 公民館や関係団体と連携したおたのしみ会等を行い、図書に触れる機会を提供した。
- ・ 学校と連携してビンゴやスタンプラリーを実施したり、小学校の図書館システムの導入に伴う閉館期間に合わせて児童への貸出を行ったりすることで、児童の読書活動を推進した。
- ・ 「おともだち絵本」プレゼントに分館職員が参加して分館利用の呼びかけを行うことで、保育所との連携を深めることができた。(13 園)
- ・ 中央図書館 110 周年記念事業のあゆみ展では、各分館の成り立ちや歴史を紹介することで、地域にとって身近な図書館としての役割を知っていただく機会となった。
- ・ 分館によって保育所や学校との連携に差があるため、各地区の実情に応じて保育所や学校と連携を検討し、こどもの読書活動を推進していく必要がある。
- ・ 誰もが気軽に立ち寄り、「私の図書館」という意識をもっていただけるよう、来館者とのコミュニケーションを大切にする。
- ・ おともだち絵本事業を通して保育所との連携を深めるとともに、学校司書との情報共有に取り組み、学校との連携によるこどもの読書活動の推進をめざす。
- ・ 分館係員の資質向上のための研修会を実施するとともに、現状に即した業務マニュアルの整備を進める。

Ⅴ 安全で安心して使える施設を整えます

- ・ 「飯田市教育委員会施設等総合管理計画」に基づき、施設設備の定期的な点検、予防保全型の修繕、環境に配慮した施設設備の更新を進める。
- ・ 令和7年度は、上郷図書館照明LED化工事、上郷図書館受変電設備更新工事、中央図書館消火栓ポンプ用蓄電池更新工事を実施。
- ・ 令和8年度は上郷図書館空調設備更新工事を予定している。

[質疑・意見聴取]

- 会 長 今の事務局の説明を受けて、ご質問ご意見等、お寄せいただきたいと思います。いかがでしょうか。
- 委員C 多様な図書を購入したとのことであるが、リクエストされた本はすべて購入しているのか。漫画のリクエストには応えていないということではあるが、普通の図書であれば購入しているのか。
- ◇事務局 市民の方のリクエストであれば、できる限り応えていくようにしており、利用が見込める図書については購入している。高価な本や専門的な本のリクエストについては、相互貸借で所蔵のある他の図書館から借りて対応することもある。雑誌や漫画のリクエストについてはご希望としてお聞きして、選書の際の参考にさせていただいている。
- 委員C 「除籍作業を進めた」とあり、来館した際に中央図書館のリユース本コーナーを見ると、「こんないい本が」と思う本が除籍されていて、ありがたくいただいている。除籍の基準はどうなっているのか。
- ◇事務局 「飯田市立図書館資料除籍方針」に沿って除籍しており、利用の有無だけで判断するのではなく、これまでの利用状況や保存の観点もふまえた方針に沿っての除籍を行っている。分館も含めて複本で所蔵している図書については、除籍する資料もある。
- 会 長 ベストセラーは、中央図書館だけでも複数冊購入する本はあるのか。
- ◇事務局 予約が多く入るものについては、中央図書館で2冊購入している。
- 会 長 複本で購入した本は、1冊にするタイミングが早いのか。
- ◇事務局 複本で購入した本は利用状況をみながら、1冊を書庫で保管する場合もある。除籍は利用状況をみながら、除籍方針に沿って行うようになる。
- 委員C 飯田市児童・生徒読書調査の結果を見て、小中学生がこんなに本を読んでいることに驚いた。1か月に10冊以上の本を読んでいる小学生が5割近くおり、9冊まで読んでいる小学生も45%である。自分がこどもの頃は、こんなに本を読んでいた。図書館に行っている割合も高く、図書館で本を借りた、本を読んだ割合も高くて、驚いている。
- ◇事務局 1か月間で読んだ本の冊数については、学校の授業や「一斉読書」で読んだ本も含めており、その影響が大きいと思われる。
- 委員A 個人的に調べているものの中に、豊丘村の庄屋さんが自費で水路を直したという資料があった。江戸時代の「庄屋」とはどういう立場の人で、歴史的な役割を知りたくてレファレンスをした。本には1頁ほど庄屋の役割が掲載されているだけであった。江戸時代は社会構造的に豊かな人と貧しい人がいる中で、自費で水路を直すということは全国的に行われていたことなのか、それとも豊丘村の庄屋の精神性によるものなのか、そういうことを突き詰めて調べたいと思った。図書館のレファレンスでも、本に書いてあることだけではなく、応用的に知りたい部分を知れるような相談にもものいただき、一緒に資料を探しながら答えを導き出すようなこともしていただければ嬉し

い。インターネットで調べると多くの情報が出てくるが、その根拠や典拠ははっきりとしないため、図書館でその根拠や典拠を調べたい。こちらの疑問を解決するようなレファレンスをしてもらえるかを知りたい。

◇事務局

図書館の本を使って調べることには、職員も一緒になってお手伝いさせていただく。図書館の本だけではわからないことがある場合や研究の部分については、歴史研究所の研究者や美術博物館の学芸員に連絡をとって、知りたいことがわかるようにお手伝いをしていく。

○会 長

学校でのこどもたちの読書の様子はどうか。

○委員 E

小学校では、毎週月曜日の朝 8 時 20 分から 35 分の 15 分間を朝読書の時間としている。読書旬間中は毎日、朝のその時間を読書時間としている。

国語の授業で図書館に行く時間が各クラス週 1 回あり、読み聞かせを聞いたり、自分で本を読んだりしている。その時間は全員が図書館に行くため、1 週間に 1 回も図書館に行かなかったということはない状況である。しかし、その授業時間以外で朝の時間や休み時間などに図書館に行くかということ、個人差がある。学校生活アンケートで「進んで読書をしたと思いますか」という質問があり、この質問への肯定的評価が 15 項目ある中の下から 3 番目の低い数字であった。「進んで読書をしたと思いますか」という問いに対して、約 70% の児童が肯定的な「そう思う」、「まあそう思う」と答えている。70% は高いと思われるかもしれないが、「友達の話をしっかり聞けましたか」、「授業がよくわかりますか」といった他の質問の肯定率が約 80~90% であるのに比べると、読書の質問の肯定的評価は低めである。こうした状況について教員たちも課題に思っており、「どうしたら本を読むようになるのか」といった声は出るが、具体的にどうすればいいのかといった案は出てきていないのが現状である。

学校司書の先生が作成したレポートの中に、「図書館って本を借りなくても行っていいの?」と聞いた児童がいて、その質問にハッとさせられたとあった。授業で毎週図書館に行くため、こどもたちにとって図書館は本を借りに行く場所であった。学校司書の先生は、ぜひこどもたちに本を借りる以外でも図書館に気軽に来て、その場で本を読んでいく、図書館がこどもたちの気軽に立ち寄れる場所になれるとよいと書いており、なるほどと思った。おそらく学校司書の先生がそうした取組を進めてくれるのではと、期待している。

○委員 F

中学校では、毎朝朝読書の時間を 10 分間設けており、令和 8 年度はこの朝読書の時間をなくすかどうかという話が出た。しかし、ここで朝読書の時間も無くしてしまえば、生徒たちの読書離れがより進んでいくのではないかとということで、継続して実施することとなった。自分から進んで読書をする生徒が減っており、学校から「図書館で本を借りなさい」としないと借りない生徒も多くなっている。図書館司書の先生もテーマ展示をしたり学級文庫を増やしたりして、生徒たちが本に興味を持つように工夫している。生徒たちに読書の良さが伝わるように働きかけられたらと思っている。

令和 8 年度からみらい創造科の探求学習が本格的に始まり、今後図書館の利用が増え

と思われる。ふるさとの学習をさらに深める、郷土のために自分ができることを考える際に、インターネットで調べるだけでは限界がある。公民館とタイアップして地域の方たちとつながって話を聞いたり、図書館でヒントを調べたりすることが増えてくるのではないかと思う。

○会 長 小学校や中学校の現場の様子がよく分かった。朝読書の時間に読む本は、自分で用意するのか。その時間、こどもたちは集中して本を読んでいるのか。

○委員 E 図書館で借りた本や家から持ってきた本を読んでいる。その時間は集中して読んでいるこどもたちが多い。

○委員 A 私はいつもかばんに本を入れていて、空いた時間が 5 分でも本を読んでいる。旅に行くときには、旅先に関する本を読んでから旅に出る。また、お母さんが小説を書いている、娘さんも小説を読むようになったと聞いた。こどもの読書については、親の影響が大きい部分もある。

○委員 G 久しぶりに図書分館へ行った。自分が子育てをしていた時にも分館に通っていたが、今回行ったら、テーマ本で季節の本が展示してあったり、サンショウウオのコーナーがあったりして、入ったときにワクワクした気持ちになり、分館の係員さんがとても頑張っているなと感じた。年長さんが分館に行けるように保育園と連携したり、小学生も下校途中に寄ることも許されたりして、こどもたちが分館に行くようになっている。保育園の利用は以前よりも回数が減っているとのことであったが、分館に行ったときのワクワク感を保育園児に多く感じてもらえると、家庭でこどもたちから「図書館に行こうよ」という声につながるのではないかと思う。分館は地区の中であって、歩いていける距離にあるため、家族でお散歩がてら分館に行って本を借りるというようになり、家庭の中に図書館や分館がしみ込んでいくのではないかと思う。

読み聞かせボランティアの人たちが保育園へ行っての読み聞かせもよいが、分館に行って自分で借りてきた本を家に持って帰って楽しむというのは、保育園から本を借りるのとはまた違った良さがあるので、ぜひ保育園などと連携して分館のワクワク感を感じられるようにしてほしい。

○委員 E これまでは、「小学校からの下校の際はまっすぐ家に帰りなさい」としていたが、昨年度末から水曜日は図書分館に寄ってもよいことにした。そうしたら、多くのこどもたちが分館に行くようになった。こどもたちにとって分館は行きたい場所であり、決して図書館が嫌いではない。本を借りに行く場所というよりは、本を見たり、友達と交流したりする場所にもなっている。

○委員 A 自分がこどもの頃、図書館や保健室は先生と話をしたくて行っていた。話をしたい人がいるということが大事である。

○会 長 地区のこどもたちの見守りをしている方々から、小学生が集団で帰ってこなくなったという話を聞いた。それは分館に寄っているこどもたちがいるからかもしれない。

◇事務局 資料③「飯田市児童・生徒読書調査結果報告書〔全市版〕」11 頁の質問 10 の「図書館でしたことを全部選んでください」の回答で、「図書館の人や先生とおしゃべりをした」

「友だちとおしゃべりをした」という回答が令和6年度の小学校で低かったため、学校司書の先生方も雰囲気づくりを考えた経緯がある。図書館がこどもたちのちょっとした居場所になることも大事だと考えて取り組んでいる。

○会 長 こども時代に本の楽しさを知ることは一生の宝物になる。

○委員D 悩んだときに答えを探すために本を読む。現代は親が忙しくなって、なかなかこどもに本を読んであげられなくなっているのかもしれない。

○委員H 働いている親は、こどもを図書館に連れていくことも大変であるため、保育園で分館に行くことは良いと思う。こどもが保育園で分館に行くことが、家族で図書館に行くきっかけにもなるのではないかな。

(3) その他

○会 長 それでは、その他について説明をお願いします。

○事務局 ・ビジネス支援講座「A I の上手な使い方」(2月28日・中央図書館)
Medi coorde 代表・大曾根康人氏を講師に招き、A I の使い方をお聞きする講座。
・中央図書館開館110周年記念事業 図書館PR動画「飯田市立図書館ってどんなところ？」の視聴

○会 長 長時間にわたり、ご議論いただきありがとうございました。それでは、これで協議を閉じます。